平成２９年９月１５日（金）静岡新聞　朝刊　（県内版）２２面

天竜高、林業授業にドローン

18年度にも導入目指す

浜松市天竜区の県立天竜高は14日、同校の演習林（同区山東）で小型無人機ドローンを利用した林業の特別授業を初めて行った。（天竜支局・松本直樹）

飛び上がるドローンを見つめる県立天竜高の生徒ら＝14日午後、浜松市天竜区山東の同校演習林

活用法、若者の発想期待

講師は静岡理工科大機械工学科の増田和三教授らが務めた。同校は林業の授業でのドローン導入を目指していて、２０１８年度にも実現する方針。

約30㌶の広大なスギ・ヒノキ林上空でドローンがホバリングすると、参加した森林科と環境科の2年生25人から歓声が上がった。静岡市葵区梅ケ島出身で実家が林業を営む鈴木崇元さん(17)は「急斜面で人が入りにくい場所の管理などに使えそう」と話した。

同校は当初は今秋にドローンを導入し、授業で実習を始める予定だったが、補助金などの関係で延期した。今後、同大などの協力で不定期に特別授業などを行いながら、早期の本格導入を目指す。同教授によると、公立高の授業でのドローン導入は全国的にもまだ珍しいという。

天竜区の広大な森林は、大半がスギやヒノキの人工林。天竜美林と呼ばれる国内有数の産地だが、担い手不足が課題で、省力化のためのドローンの役割が期待されている。

上空から木の生育状況を把握したり、土砂災害の危険がないかを確認したりできるという。

増田教授は「林業を学ぶ若者の発想で、今までにないドローンの活用法も考えてほしい」と話した。

静岡新聞社編集局調査部許諾済み